

幡山地区・本地

市内で最も古い古墳が分布する本地地区は、矢田川が丘陵地帯から広い沖積地への移行部分にあたります。水田を中心とする集落ですが、養蚕なども盛んに行われていました。



本地大塚古墳（市指定史跡）

本地大塚古墳は市内で確認される唯一の前方後円墳です。墳丘の全長が 30.8 m で、東側に後円部が造られています。前方部は後円部に対し、短く張り出す形状から「帆立貝式」とも呼ばれる形態です。埴輪が出土しており、円筒形埴輪と鳥や武人などを模した形象埴輪がみられます。また、平成 27 年（2015）には幡山西保育園建替工事に伴い、墳丘の北側の発掘調査が行われ、周溝の一部が検出されました。周溝は二重に巡らされており、周溝の中からは埴輪や須恵器などが多量に出土しています。その年代から古墳は 6 世紀初め頃に築造されたと考えられています。



陶器



石器



創造



街



交流



自然



祭り



本地城跡



城跡の正確な位置は不明ですが、江戸後期までは北と東を区切る堀跡が残っていたようです。宅地造成にともなう立会調査では、北辺の堀跡と思われる溝の一部が検出され、戦国期の遺物も一部出土しています。今村城主松原広長の叔父にあたる人物の居城とする伝承があります。本地地区に残る伝説として、150 人余りの浪人が本地城を攻めようと集合していたところ、領民はつるべ・柄杓・桶などの底板をすべて打ち抜いて使い物にならないようにして逃げたというものです。この底抜け柄杓の伝説は、本地の警固祭りの標具にも反映され、網を地とした高札の両脇に、底抜け柄杓を取り付ける形となって今日まで伝えられています。



宝生寺



佛法山宝生寺は曹洞宗の寺院で本尊は観世音菩薩です。元は弘法大師を本尊として原山（現西原町 1 丁目）にあったといわれています。寛永 9 年（1632）に雲興寺 15 世興南義繁によって開創され、八丁寺（現西本地町 1 丁目）に移転し雲興寺 25 世全山紹道によって佛法山宝生寺として再興しました。享保 5 年（1720）に山口川の大水害にあい流失したため現地に再移転しています。寺宝としては 2 代目大興柏春の真筆正法眼蔵があり、年中行事の中では尾張糸びす社での 1 月 5 日の初糸びす大祭が有名です。又延命地藏尊の夏祭りも地域をあげて例年と行われています。

笠松伝承地



宝生寺裏の丘陵尾根の小高く突き出た部分に御嶽山があり、その小堂や石碑群の南西側に 1 本の松が植えられています。この松に関しては、小牧・長久手の戦い（天正 12 年（1584））の際に、徳川家康がここに立ち寄り、被っていた陣笠をその枝に掛け、兜に付け替えて合戦に臨んだとする故事にちなんで「笠松」と呼ばれているものです。残念ながら、実際の松は戦後まもなく枯れてしまい、現在は 3 代目の若い松が故地に植えられています。

八幡社（本地）



文治元年（1185）に大分の宇佐八幡宮の分社として創建されたといわれています。本地村の氏神で、創建当初の文物はありませんが、今日まで残されている棟札には寛延元年（1748）の本殿建造のものが最古で、寛政 5 年（1793）の村絵図にも現在の位置に八幡社が描かれており、江戸中期には現在の位置に所在していたようです。秋季の例大祭には、標具を付けた飾り馬 1 頭をともなった警固祭りが行われ、棒の手や鉄砲隊とともに地域をまわり、神楽等とともに八幡社へ奉納されます。

本地地区地図



- ① 本地大塚古墳 (P151)
- ② 本地城跡 (P152)
- ③ 宝生寺 (P152)
- ④ 笠松伝承地 (P153)
- ⑤ 八幡社 (本地) (P153)